

PTA事業部だより

H27 2.17 PTA事業部 発行

創立 30 周年記念

PTA 教育講演会「勇気づけの子育て」

～日本学校教育相談学会山形県支部理事長 佐藤 節子 先生～

H26.12.4 (木) 19:00～長岡公民館



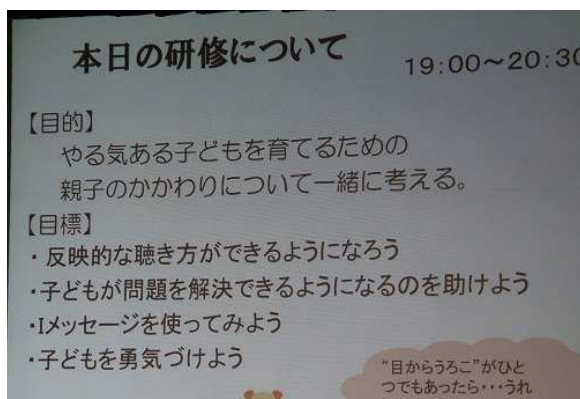
はじめに

今年度、本校 PTA 事業部では、「親学習プログラム (STEP) に、子どもの成長と親の関わりについて学ぶ」ことをねらいに、佐藤節子先生をお招きし、教育講演会を開催しました。

なお、本事業は県のいじめのない学校づくり推進事業の一環でもあり、三中学区いじめ防止対策推進連絡会の共催でもありました。



1 当日の研修内容



2 反響的な聴き方ってどんなの？

【反響的な聴き方とは】

→相手の気持ちを受け止める聴き方です！

例：子どもが転んだとき

○「痛かったね」

×「痛くない。泣かない！」

3 子ども自身が問題を

解決できるようにしよう

- ①子どもと一緒に解決方法を考えてみる
- ②その方法をとったときを予想してみる
- ③実際にその方法をしてみる
- ④その方法を繰り返す

※①～④の間は見守って、親が解決策をとらない

4 参加者の感想

- ・ 今までの言動について、ほめがちな自分だったことに気づかされました。相手の気持ちを語ってあげ、自分の気持ちを伝えることが、本当の「寄り添う」ことだと改めて思いました。目からうろこでした。
- ・ 「心配が怒りになる。」何度もそういうことがありました。これからは感情的に

ならず冷静に子どもの話を聞き、言葉の背後にある感情を理解し、優しい言葉で共感し、伝えられるようになりたいと思いました。そして、子どもとよく話し合い自立していけるようサポートしていきたいと思いました。

- 貴重なお話をさせていただいて、参加してよかったです。言葉がけが、いつも叱ってばかりだと反省しました。子どもの気持ち伝えることで、大きく変わることがわかって、さっそくやってみました。（子どもにはいつもとちがうという目で見られましたが。）
- 子どもに何かを求める前に親自身が変わらなければ、何も変えられないと実感しました。— 中略 — ついつい売り言葉に買い言葉で、子どもと同じレベルで言い合いになってしまうことがあります、一呼吸置いて自分を子どもの立場側に置いてから言葉がけをすることが必要なのだと学びました。全ては、自分の力で解決することができる強い心を持った子に育てるため、親の器も大きくなるように努力しなければいけないなあと感じた講演会でした。
- とても良い内容でした。頭ではわかっている、いざその場面になると怒鳴ってしまっていたり、注意していたり…子どもにはプレッシャーになっているんだろうと反省しました。時間に追われているという理由で、子どもとじっくり向き合わないこともあり、実行する難しさも感じています。
- こういった基本は、是非、小学生をもつ親御さんに理解して実践していただきたいと思いました。特に、自立への視点

を大切に育ててくださることで、中学生となってもがんばれると思います。

5 今後の教育講演会に向けて

- 子育ては、私たち誰にとっても課題です。親としての自分自身の日常を振り返るよい機会として、今後も継続していきたいと思います。
- 今年は参加者が少なかったですが、来年は、今年参加された方々を中心に口コミ情報が期待できそうです。保護者同士が誘い合って参加者を地道に増やしていきたいと思います。
- 講師については、引き続き佐藤節子先生にお願いしたいと思います。
- 開催日時については、様々な影響がある中で、特に、翌日の子どもたちの登校に支障が出ないことを優先し、設定したいと思います。例えば、授業参観後や、金曜日の夜などです。



◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

今回 30 周年記念事業として、大変有意義な講演会を開催することができました。改めて子どもへの関り方や親の在り方について研修を深めたいと思いました。

最後になりましたが、皆様のご協力に対しまして心より御礼申し上げます。